

公務員の災害への危機意識とは？

～西日本豪雨で感じた疑問～

このたびの西日本豪雨によりお亡くなりになられた方々のご遺族の皆様に深くお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、一日でも早く普段の生活に戻れますようお願い申し上げます。今回の西日本豪雨災害に対しての義援金募金箱を明和町役場や公共施設に置かせていただきました。



▲鹿野川ダム(肱川上流)

今回の豪雨で愛媛県の肱（ひじ）川が氾濫し、9名が死亡する過去にない被害を出しました。その要因は2つのダムの放流です。

肱川にある2つダムでは、7月7日の朝に貯水量が満杯に近づいたため国土交通省四国地方整備局がこのままではダムが溢れると判断し、流入量と同規模の水を緊急的に放流する「異常洪水時防災操作」が行われました。その放水量はなんと安全基準の6倍という猛烈なものだったそうです。四国地方整備局は、災害の4日後の7月11日に会見で「この操作は適切なものだった」と言っています。そして、同じく11日の時点で四国地方整備局の担当者は「下流域の被害は予想されていたが、想定外の雨量で、ダムの容量がいっぱいになり、放流はやむをえなかった。住民への情報の周知は適切だったと思う」としています。しかし、その放流を行ったことで広範囲にわたって洪水が発生したため、逃げ遅れたり土砂崩れに巻き込まれるなどして9名の尊い命が失われてしまいました。

では、その適切だったという「住民への情報の周知」とは、具体的に何を行ったのでしょうか？西予市によると、避難指示を出し防災行政無線等を使って、住民に注意を促したということですが、取材のインタビュー等を見る限り、多くの住民はスピーカーの音が異常な降雨にかき消され聞こえなかったそうですし、聞こえた人でもいつもの放流かと思ったと非常事態が迫っていることは伝わってこなかったそうです。しかも、放流を決めた時点で甚大な被害が出るのが分かっていたながら、実際に避難指示をだしたのは放流開始の約1時間前だったというのは驚きです。

この点について、国土交通省担当者は「できることはやったが、情報を受けた住民側が行動に移してもらえなかった。住民の意識を高める取り組みを続けていく必要がある」と述べています。これでは住民の意識が低かったのが問題だと言わんばかりです。

これを聴いてちょうど、落語の「与太郎」のとある節を思い出しました。与太郎！「この魚見ている！」と言い置いて、戻ってみたら魚がない。見ていると言ったじゃないか！と与太郎に言うと、「ちゃんと見ていたよ。見ていたら猫がくわえていった」と言う一節です。

「放流はやむをえなかった」「住民への情報の周知は適切だった」とし、避難しなかった住民側へ責任転嫁をしています。まるで「与太郎」の「勝手に猫が魚をくわえていった。猫を追っ払わなかったのは、見てなさいと言われたから見ていただけだ」と言う節に似ていませんか？ マニュアルや規定どおりにやったから間違っていないと言いたいのでしょうか、マニュアルや規定を超えてこの危険を知らせることができなかったのでしょうか？

公務員とはこうも認識の低い職業人なのでしょうか？ 税金と言う尊い上納金から給金を貰い、自分の立場や地位を守ることだけを考えている可愛そうな人たちなのでしょうか？ このレベルで変わらず給料が支給され、変わらずボーナスが貰え、そして、変わらず定期昇給ができる。さらに退職

金も貰える。これでは余計な汗はかかず、大した知恵も出さなくなり、プロ意識のかけらもなくなってしまいます。

しかし、私はこのような公務員のありかたについて常々疑問を抱いていたため、この明和町役場では、私の就任当初から職員の意識改革に取り組みました。例えば、リーダーシップは主に2種類あるといわれ、私はそれらを意識し活用しています。

一つは、**トランザクティブ・リーダーシップ**です。これは、部下の意思を尊重し、部下が成功すればきちんとそれに報い、失敗すればそれに対処するという、「アメとムチ」をうまく使い分けることです。私は、給料の昇給を細かくし多くの階段を適用、ボーナスも傾斜配分を強化し、職員が高いモチベーションと志を持てる環境・体制づくりを行ってまいりました。

もう一つは、**トランスフォーメーション・リーダーシップ**です。これは、部下の「啓蒙」を重視します。組織のビジョンやミッションを明確に掲げ組織を牽引し、部下の気持ちを前向きにすることで、組織に変革（＝トランスフォーメーション）を起こすことです。こちらモチベーションアップに繋がります。私が特に重視することは、「明確な将来ビジョンを示し組織を牽引すること」です。

この2つのリーダーシップを使い分けながら、明和町職員の資質を高めていくことが、明和町の皆様の幸せにつながってゆくのだと信じております。

そして、これからも明和町の職員がいわゆる「与太郎」にならないようにしっかりと目標を定め牽引してまいります。皆様がお気づきになったことは、遠慮なくお申し付けください。これからも皆様の町政に対するご支援とご理解をいただけますよう職員一同一丸となって頑張っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

平成30年8月17日

明和町長 富塚もとすけ